

あいぽーと通信

令和5年
(2023)
3月発行
第64号

トピックス
Topics

- 特集：日本とチベット 異文化を超えて
- サテライト講演会（県西部）「子どもの自己肯定感を高める7つの方法」
- ハンセン病講演会「ハンセン病から学ぶこと」
- あいぽーとスタディ
- あいぽーと徳島情報



あいぽーと徳島では、人権に関するさまざまなイベントを開催しています。

特集

自分と兄との違い

異文化とは、生きていく環境の違いです。チベットには雪解け水がたくさんあるので滝や山の水は見慣れていましたが、海はないので日本の和歌山で初めて見た海には感動しました。一方で、ケニアから来た方は滝の水を見て泣いていました。なぜならケニアではいつも干ばつで苦しみ、水を求めてみんな何十キロも移動するのに、日本ではこんなきれいな水が山から湧いてきて飲める、なんという世界だろうと。自分たちの環境によって他の国の見え方が違ってくる、それが異文化だと私は思います。

私のふるさととはチベットの中でも山奥の貧しい地域で、私は十一人きょうだいの九番目として生まれました。両親は字が読めなくてたくさん苦労したので、子どもたちはちゃんと人間として生きてほしいと私たちを学校に行かせてくれましたが、食べていくために上のきょうだいはみんな苦労

日本とチベット 異文化を超えて

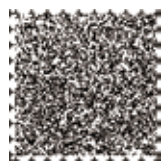
令和4年度「人権教育啓発 男女共同参画の推進」啓発行事・フレアキャンパス講座

講師：バイマールヤンジンさん チベット人歌手 令和5年2月23日開催

言葉で傷つき 言葉に救われる

今私がこんな幸せになれたのは、学校に行けたからです。高校は家から三百km離れた場所でしたが、下宿先では自由に生活できるようなったのがうれしく思いました。チベットでは朝五時に起きて牛のミルクを絞り、家に帰ったら大きなカゴを背負って燃料にする牛のフンを拾いに行かなければなりません。冬休みに家に帰ると、弟二人がしもやけで腫れ上がった手で大きなカゴを背負って牛のフンを拾いに行く姿を見て、申し訳なく思いました。学

校をやめて弟を学校に行かせようとも思いました。だけど中学校の先生は「大学に行きなさい」と言ってくれました。大学を卒業したら国から仕事をもらえるから、そのお金で弟に美味しいものやきれいな服を買ってあげて、親にも楽をさせてあげてと。それを実現するために、私は命をかけて勉強しました。私が選んだ四川音楽大学はそれまでチベット人を入学させたことがなく、そこでは民族差別によるいじめを経験しました。その時、私は初めて自分がチベット人だということを意識しました。周りには自分のような民族衣装は着ていないし、私の顔はかなり日焼けしていました。みんなから異物を見るような目で見られ、山から野蛮人が来たと噂されるし、牛や羊と暮らす遊牧民だから細菌が付いてるんじゃないかと言われることもありました。チベット人の私からすれば牛や羊と生活することは当たり前ですが、牛や羊から遠く離れた人たちにそれは理解できないんです。



(音声コード)

あいぽーと徳島では、様々な講演・講座・イベント等を実施しており、随時開催情報を「あいぽーと徳島ホームページ」でご案内しております。

※参加を希望される方は、あいぽーと徳島までお問い合わせください。

企業と人権・SDGsと人権に関する講演会

参加費
無料

申込
必要

- 講 師：森本 美紀子さん(株式会社karna 代表取締役)
- 開催日：令和5(2023)年5月18日(木)13:30～15:00
- 会 場：沖洲マリンターミナルビル2階 マリンホール(予定) 人権研修としてご参加いただけます。

令和5年度 人権教育啓発リーダー養成講座(前期)

参加費
無料

申込
必要

各人権課題について問題解決に向けて活動されている方を講師としてお招きし、研究・実践例を交えたお話を主とした講座を開催します。

- 開 催：令和5(2023)年6月～9月 毎月開催
- 会 場：沖洲マリンターミナルビル2階 マリンホール等

あいぽーと徳島講演会 拉致問題

拉致被害者家族会代表 横田拓也さん講演会

参加費
無料

申込
必要

- 開催日：令和5(2023)年8月19日(土)13:30～15:00
- 会場：あわぎんホール 4階大会議室(徳島市藍場町2丁目14番地)

講演会をホームページでご覧いただけます。 配信中

第1回配信講座

マイノリティデザイン ～すべての弱さは、世界ののびしろ～

講師／澤田智洋さん(コピーライター)



第2回配信講座

被爆体験伝承講話 ～ガルボ(ヴァイオラとピアノ)の音色とともに～

語り部・ヴァイオラ演奏／沖西慶子さん
ピアノ演奏／長沼靖子さん



第3回配信講座

農業を食糧と職業にできる社会へ ～生きづらさ・働きづらさのある人とともに～

講師／小島希世子さん
(NPO法人農スクール代表)



主催・問い合わせ：あいぽーと徳島(徳島県立人権教育啓発推進センター) TEL:088-664-3719
あいぽーと徳島ホームページ: <https://www.aiport.jp/>

人権相談のご案内

あいぽーと徳島では、人権擁護委員・弁護士による人権相談を行っています。まずは電話にてご連絡ください。

Tel.088-664-3701
(徳島県男女参画・人権課分室)

一人で
悩まず
お電話を

- | | | |
|-----------------------------|-------------------------|------------|
| ●人権擁護委員による相談 | 第2・第4土曜日 (10:00～16:00) | 面接相談及び電話相談 |
| ●弁護士による相談(要予約) | 第1・第3金曜日 (13:00～16:00) | 面 接 相 談 |
| ●弁護士によるインターネット上の人権侵害相談(要予約) | 偶数月の第2金曜日 (13:00～16:00) | 面 接 相 談 |

[編集・発行]

あいぽーと徳島

徳島県立人権教育啓発推進センター
指定管理者 特定非営利活動法人 徳島ヒューマンネット
〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル内
Tel.088-664-3719 Fax.088-664-3727
E-mail:info@aiport.jp

あいぽーと徳島 検索 <https://www.aiport.jp>

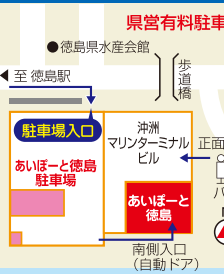
- 開館時間／午前10時から午後6時まで
- 休 館 日／月曜日(祝日の場合はその翌日) 年末年始(12月29日から1月3日まで)

■公共交通機関のご案内 JR徳島駅前から徳島市営バス⑥番のりば・徳島バス[中央市場線]に乗りし、[沖洲マリンターミナル]にて下車。



お車を利用の場合、ビル西側駐車場の「あいぽーと徳島」と表記のある赤いコーンの場所に駐車してください。
満車の場合は、ビル北側の県営有料駐車場をご利用ください。
●3時まで200円

駐車場案内図



(音声コード)



そういう中で二期大学を辞めようかとも思いました。しかし辞めようと思った時、最初に目に浮かんだのは母親の顔でした。私は人生の中で、親を泣かせることだけはやってはいけなと思うっていますから、絶対に卒業しようと決めました。

必死に四年間を乗り越えた、卒業式の日。その時にはコンプレックスがいっぱいで、チベットの山も牛も羊も民族衣装も嫌いになっていました。でも最後のコンサートで歌い終わった後、控え室にある

男性が訪ねてきて「チベットはすばらしい所ですね」と言ってくれたんです。周りからはいつもチベットは汚い、野蠻、山に帰れ、そういう言葉ばかりを受けてきて、チベットを褒められたのはそれが初めてでした。銃で撃ったら傷が残りますし、棒で殴ったら青あざができます。しかし言葉による暴力は見た目には何も残りませんが、言葉はじつに怖いもので、一言ごとに魂をだめにする。そのかわり、魂を救うのも言葉なんです。「チベットはすばらしい」という言葉に、私は一筋の光さえ感じました。その言葉をかけてくれたのが、今の夫です。

■誰かを支えていくことに生きる意味を感じて

日本で私はすばらしい異文化と出会いました。大学の時に触れた異文化は差別やいじめを伴っており、私にとってマイナスなものでした。しかし日本に來た時、優れた交通機関や学びたいことを自由に学べる教育機関、そして充実した医療などプラスの異文化に出会いました。みなさんはその価値にお気づきでしょうか。

私はチベットでの学校建設を二十五年間続けてきました。最初

の学校はハンバーガーショップでアルバイトしたお金で建てたんです。チベットの親は歳をとったら一切働けなくなりますが、社会福祉も一切ないので、子どもだけが頼りなのです。子どもが面倒をみなければ、親は生きられない世界です。夫からは甘やかしすぎだと言われますが、私は今も弟2人になにかあれば全力で助けます。私を学校に行かせるために家族全員が我慢をして節約してくれたおかげで、今の私があるのです。その私が今働いて稼いだお金は、家族のために使うのが当たり前だと思っています。

異文化は「大きな鏡」です。この鏡の前に立ってみれば、チベット人はどういう民族か、そして我々の良い点や悪い点にも気付くことができます。皆さんも異文化を知ること、自分が日本人として何ができるのかわかるはずです。

この世に生まれた人たちの中で、誰が自分の意思で不幸に生きようと思うでしょうか。幸せになりたいという生きる目的は、みんな同じです。誰かを手助けできるように気付けばいいなと思います。

●講師プロフィール: バイマーヤンジンさん チベット人歌手

チベット出身。歌手。中国国立四川音楽大学卒業後、同大学専任講師に就任。1994年來日後、日本でただ1人のチベット人歌手として、故郷チベットの音楽や文化を紹介するため、全国各地で講演会、コンサートを行なう。ユーモアたっぷりの語り口で、日本とチベットの文化の違い、家族のあり方などをテーマとした講演は多くの人々の感動と共感を呼び、テレビ、ラジオ等でも度々紹介され、テレビ静岡「テレビ寺子屋」レギュラー講師、毎日放送「ミント!」ではコメンテーターも務めた。チベットの学校建設活動も大きな成果をあげ、9つの小学校と1つの中学校が開校、経済的に苦しい大学生への奨学金支援も20年以上続けている。大阪市より「きらめき賞」、新潟県長岡市より「米百俵賞」を受賞。

令和五年二月十九日(日)サテライト講演会(県西部を開催しました)

「子どもの自己肯定感を高める7つの方法」

●講師：長谷川 満さん
(家庭教師システム学院 代表)

自己肯定感とは、そのままの私でいいと思えることであり、弱いままの自分を好きと思えることです。自己肯定の反対は自己否定です。自分を嫌って自信が持てずに、いつも人の目が気になり、前向きにチャレンジもできません。そして一番良くないのは自己否定から他者否定につながってしまうことです。自己肯定の根底には自己受容があります。そのままの自分を受け入れることで安心感が生まれ、前向きな気持ちになり、幸せな人生につながります。子どもの自己肯定感を育てると自信のある子どもに育つということです。それでは子どもたちの自己肯定感はどういうにして高めればいいのか。

- 1 幸せを受け取る(子どもの存在を喜ぶ)。
- 2 そのままを愛する(変えようとしない)。
- 3 子どもの善さを見る(尊敬する)。
- 4 話を聴く(口を挟まず最後まで)。
- 5 気持ちを理解しようとする(押しつけない)。
- 6 信じて任す(管理者ではなく援助者になる)。
- 7 弱さや欠点を受け入れる(許し合う)。

この7つ方法はつながっており、共感することを心掛けるだけでも十分です。

子どもたちに「どうしたら良いと思う。何か手伝えることはある。」等のプラスの言葉で問いかけをしてください。「なんでくするの。なんでくしないの。」というマイナスの問いかけをプラスの問いかけに変えてください。子どもの考えや意見を聞くとうと問いかけていくことで対話が生れます。対話は対等な立場で話をするものであり、子どもたちは対話の中で、自分で考え、答えを見つめます。そしてプラスの問いかけによって子どもは「自分を大切にしてくれている。認めてくれている。愛されている。」と感じます。それは、子どもの自己成長力を発揮し、主体性、意欲、能力を引き出します。子どもたちは、子育てが上手な親に育ててほしい訳ではなく、欠点もあるあなたに育ててほしいのです。自分の駄目なところを許し自分を受け入れたように、家族の駄目なところも許し合うことで笑顔になれます。許し合って幸せに子育てをされることを心より願っています。

令和五年二月十六日(木)ハンセン病講演会を開催しました。

「ハンセン病講演会 ハンセン病問題から学びよう」

●講師：大高 俊一郎さん

(国立ハンセン病資料館 事業部 社会啓発課 課長)

ハンセン病は明治四十年「癩予防に関する件」が成立し、隔離政策が始まります。昭和六年、全てのハンセン病患者の強制隔離が始まりました。戦後は薬での治療が可能になりますが、昭和二十八年「らい予防法」が成立。医学的に根拠のない隔離を続けられ、廃止されたのが平成八年のことです。その後、平成十三年にハンセン病にかかった人たちが国を訴えた国賠訴訟の裁判では、その主張が認められ、「らい予防法」は憲法に違反する人権侵害であると確定されました。平成二十一年、国による間違ったハンセン病対策の被害を被った方たちの名誉を回復させるための活動、療養所での生活をしている方が安心して暮らせる環境づくりに取り組まなければならないことと等が定められた「ハンセン病問題基本法」が施行されました。

ハンセン病患者とその家族を苦しめた原因は国が「おそろしい伝染病」という考え方を広め、偏見や差別を助長し、隔離が必要ないのに強制的に隔離したことです。療養所に入ってくる人は家族との縁が切れてしまいます。たとえ亡くなっても多くの場合は、家族との縁がもとに戻りません。

令和四年五月一日時点では、国立ハンセン病療養所の入所者は九百二十七人、平均年齢は八十七・六歳でした。歳を取りすぎている、体が不自由、一緒に暮らせる家族がいらない、差別されるなどの理由で、病気は治っていますが療養所で生活を続けています。ハンセン病への差別は未だに続いており、解決しなければならぬ課題が残されている現在進行形の人権課題です。

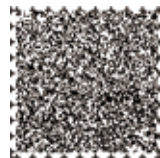
差別は自分のことになったときに姿をあらわします。未知の感染症が流行した時に、今起こっている新型コロナウイルス感染症でも、感染の初期の段階で怖い病気、よく分からない病気と思い込んでしまったために偏見や差別が起こりました。私たちは、かつてハンセン病を患った方、その家族がうけた人権侵害や偏見、差別等の過ちを繰り返さないようにハンセン病問題を教訓とし、正しい知識とそれに基づいた行動を取ることが必要であると思っています。



(音声コード)

障がい者問題学習

令和4年12月15日(木)阿南市橘小学校4年生のみなさんがあいばーと徳島にて、車いす・アイマスク体験をし、障がい者問題についての学習をされました。



(音声コード)